日刊 動労千葉

84.11.15

No. 1793

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四七二（22）七二〇七

今秋・来春 三里塚・国鉄決戦へ
動労千葉と連帯して闘う
!!・10国鉄労働者集会・来賓の挨拶

「11・10国鉄労働者集会」は一〇五〇名の大結集をかちとり、中曽根の侵略戦争へむけた二期着工、国鉄労働運動解体攻撃に総反撃していくための戦闘宣言を発した。

本号では、連帯のあいさつをされた来賓の方々の発言要旨を紹介する。

三里塚芝山連合空港反対同盟
——北原事務局長——

11・10は大結集をもってかちとられた。三里塚闘争がどれだけ労働者のみなさんと結合して闘っていけるかを目標に、今後も闘いを進めていく。いま、六千名の機動隊を前面にたて、成田用水攻撃がすすめられている。六千名の機動隊をひきずり出したことは、三里塚闘争が偉大な勝利の道を進んでいることを証明している。国鉄労働者に対する十万人首切り合理化に対し、みなさんとともに闘いぬく革と同時に、三里塚も必ず勝利する。

動労千葉ジェット闘争支援共闘会議
——浅田代表世話人——

今日の国鉄の状況は、敗戦直後の十万人首切り、松川事件の起きた状況と似ている。その背景にはアメリカが占領政策を転換し、レッドパージの方向に進み、下山事件、国鉄労働者の血みどろの闘争があった。中曽根は戦後を終らせ、戦争準備体制に転換させており、それを背景に国鉄、三里塚、破防法の問題がある。変革期の敵権力の凶暴な弾圧に対し、人民は闘いのエネルギーを爆発させる可能性、条件を与えられている。経営との共存をうたう動労革マルは、いまや鉄労以下だ。これに憤激しない労働者がいたらおかしい。革マルを反面教師として、権力と真向うから闘う決意をうち固めよう。

全逓東京空港支部
——岩本書記長——

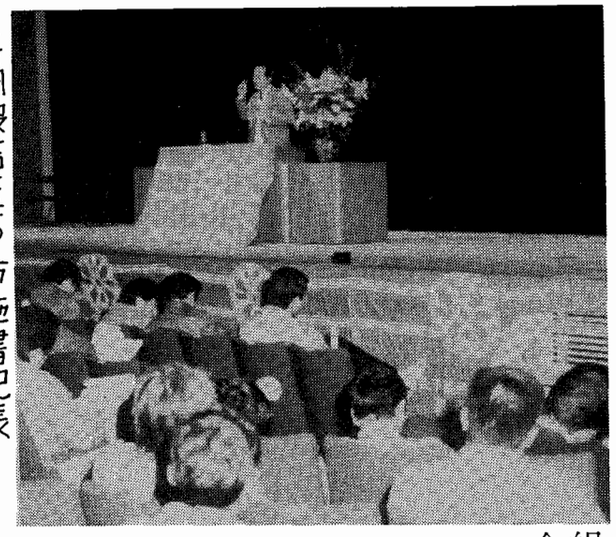
中曽根の「戦後政治の総決算」攻撃が反戦・反核の砦—三里塚闘争つぶしに集中しているとき、労働者の反帝決起が強く求められている。郵政においても「59・2」の貨物撤退により鉄郵労働者三千名が強制配転させられ、勧奨退職の実質首切りが強行された。全逓本部民同は、中曽根・当局に屈服し労働者の利益を売り渡した。今回「60・3」で、業務の成田、大手町への全面移管攻撃が三里塚を闘う支部つぶしとしてかけられている。私たちは〝動労千葉に続け〟を合言葉に組織の総力をあげ「60・3」に決起する。

全金本山労組
——青柳書記長——

私たちは十四年目の闘いに入った。日本労働運動史上、ロックアウト下の闘いでは最も長いと思う。その間二度の組織分裂を経験する中で、新たな労働組合をつくりあげた。現在、国鉄、全逓、教組の皆さんも大変な攻撃を受け、重大な危機を迎えているが、既成指導部は労働者の生活と権利を切り売りして生きのびようとしている。彼らを批判するだけでなく、今こそ三里塚を含めたあらゆる政治闘争を闘える労働組合の総結集が問われている。少数でも私たちが起ちあがれば多くの労働者が後に続く。個別闘争に勝利すると同時に、混迷する労働運動をうち破る闘える労働運動をつくりあげよう。

全造船機械石川島分会
——佐藤委員長——

私たちも分裂少数組合ですが、少数でも闘えば成果があることを三里塚闘争、動労千葉の不屈の闘いから学んでいる。三里塚闘争に労働組合の機関決定で参加する組合が少ない中で、動労千葉が3・25、10・10五割動員を達成したことは、日本の階級的、戦闘的労働運動の最も先駆的部分だ。中曽根は国家財政の破産を再建するために、人民大衆を犠牲にした軍事大国化路線を突っ走る以外になく、それが八〇年体制の確立だ。いわゆる全民労協路線であり、これと最も鋭く対決しているのが三里塚闘争と国鉄反合闘争である。ところが動労革マル、全施労、鉄労の右派三組合は「三本柱」を認めた。これは最も憎らしい裏切りであり、労使一体で労働者を職場から放り出すものだ。動労千葉の仲間が労農同盟をつくり、結束して前進している闘いに依拠し、階級的、戦闘的労働運動の力強い発展のために奮闘する。



基調報告にたつ布施書記長

ジェット闘争勝利！

臨調・行革粉砕！

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！